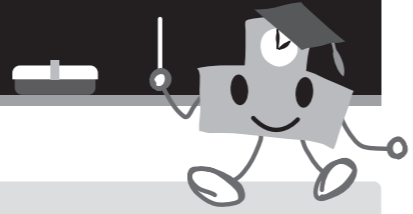


小学校の事例 北区 百合が原小学校

環境委員会の活動「ゆりっこECOプロジェクト」を とおしてエコを広める多様な活動を展開。

当校では、総合的な学習の時間に各学年でディベートをとおして、自分の考えを深める学習を行っている。



内容 委員会を中心に多彩な活動

5～6年生の各クラスから4名ずつ選出された環境委員会メンバーが中心となって環境問題を学校の生活と結びつけて考え、体験しながら全校児童に学ばせる、「ゆりっこECOプロジェクト」としての環境活動を行っている。

1 ペットボトルキャップ・リングプルの回収

●ペットボトルキャップの回収
ワクチンに交換することを目指して、玄関前に回収箱を設置し、色ごとに分けて回収している。回収したペットボトルキャップは、委員会の時間に教員と担当の児童の3人が学期ごとに、ペットボトルキャップ回収事業を行っている近隣のスーパーマーケットに持参している。

●リングプルの回収
車いすに交換することを目指し、玄関前に回収箱を設置している。リングプルが車いすになるまでのリサイクルの流れ、昨年までの回収実績、そして、現在の回収量を玄関に掲示している。



リサイクルの流れを掲示

2 紙すき体験

青少年科学館で貸し出ししている「紙すき実験セット」を使い、給食で出た牛乳パックと、給食室の栄養士さんからもらった調理に使用されたパックを再利用して紙づくりを環境委員会の児童が体験。そのようすをビデオに撮影して校内放送で流し、学校全体で紙がリサイクルされることを学びあっている。



「紙すき」を体験

3 節電・節水の呼びかけ

学校の毎月の電気、水道使用量を事務員から聞いてグラフ化し、掲示と校内放送で発表している。掲示は、模造紙に大きく書いたものを玄関前に貼り出している。校内放送については、原稿も児童が作成し、放送委員会に協力してもらいながら行っている。またこの活動の一環として、晴れの日には窓側の電気を消す呼びかけが始まった。

晴れの日教室の照度を計測したところ、電気を消した窓側(5500ルクス)と電気をつけた廊下側(5000～6000ルクス)では、ほぼ同程度の明るさであることがわかり、環境委員会がポスターを作成して行動を呼びかけている。



電気の「明るさ」について

4 紙のリサイクル

不要な紙の回収箱と、リサイクルボックスと呼ばれる再利用できる紙の回収箱を、それぞれ各学年に設置している。リサイクルボックスには、図工などで余った色画用紙や新聞紙などが分別して回収され、有効的に活用できるようになっている。



紙のリサイクルボックス

5 委員会の活動内容をパネルで展示

活動の内容を全校児童に知ってもらうために、わかりやすく表やグラフ、写真を組み合わせた掲示方法で展示している。「ダンボール堆肥づくり」については、実物大のダンボールを置いて実感をもちせられるようになっている。



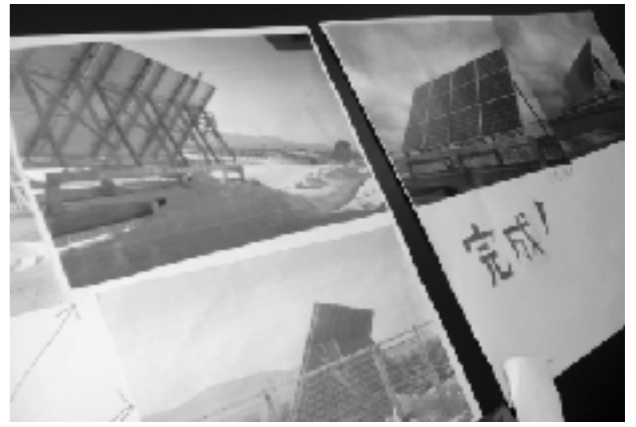
活動内容をパネルで展示

6 用務員と協力したごみの分別

用務員と協力してごみの分別を実行。さらに、低学年にもわかりやすいよう、分別を図にしたポスターを作成し、ごみ箱の上に掲示するなどの啓蒙活動を行っている。

7 太陽光発電工事の進みぐあいを発表

ソーラーパネルが校舎屋上に設置され、玄関ホールには発電量わかる液晶パネルも取り付けられることに。ソーラーパネルで生まれた電気は学校で使用される電気の一部となる。工事は平成22年10月初旬から平成23年2月中旬まで行われ、作られていくようすを写真で随時ポスターにまとめ、玄関前に掲示している。



ソーラーパネルの工事のようすを掲示